

但馬産ギフチョウの ウスバサイシンへの産卵例

谷角素彦・黒井和之

ギフチョウ *Luehdorfia japonica* Leech は、兵庫県北部では豊岡盆地を中心に広く分布し、その食草はサンインカンアオイとされている。

筆者らは、扇ノ山（美方郡温泉町）でウスバサイシンに産付された本種の卵を観察しているので報告する。

《データ》

扇ノ山菖蒲池， 2. VI. 1984, 1 例（1 卵塊 5 卵）

〃 小ヅッコ， 3. VI. 1984, 1 例（1 卵塊 4 卵）

〃 小ヅッコ， 11. V. 1985, 1 例（1 卵塊）

〃 小ヅッコ， 12. V. 1986, } 3 例（3 卵塊）

〃 小ヅッコ， 18. V. 1986,

扇ノ山は、但馬ではギフチョウが見られる最も高標高の地であり、特異な部類の生息地に属する。標高は1,000m前後で、サンインカンアオイとウスバサイシンが混生しており、前者にも産卵が確認されている。これらのことから、但馬地方でも扇ノ山などの山地では、ギフチョウはサンインカンアオイのみならず、ウスバサイシンも食草としている可能性が高い。

なお、この趣旨については、当会連絡誌“混蟲ずかんNo.6”（1984）に記したが、その後1985・1986の両年にもデータが得られ、ウスバサイシンへの産卵が1984年だけの現象でないことが明らかになったので、ここに改めて正式に発表するものである。

末筆ながら、データを提供して下さった足立義弘氏にお礼申し上げる。